

白鳥町に唯一残る手づくり手袋の技術の伝承が危機に オーダーメイドゴルフグローブ販売で産業を応援

～ 中国生産に押され、手袋の国内生産の割合は69%から2%に ～

株式会社アスキュー（本社：大阪市中央区、代表：久保 博一）は、急激に海外生産が進み、技術の伝承が困難になっている国内の手袋産業を販売面で支援するため、香川県白鳥町（現東かがわ市）の職人が一つずつ手作りで作るオーダーメイドゴルフグローブを販売しています。職人2人で一日に20組しか作れない手作りグローブを適切な価格で購入するとともに、父の日に集中しているオーダーを分散し、平準化することで産業の魅力を高め、手袋職人の後継者づくりをバックアップいたします。

白鳥町で作られる世界に一つだけのグローブ

香川県白鳥町（現東かがわ市）は手袋の国内生産の90%以上を占め、「手袋の町」と呼ばれる手袋産業の集積地ですが、平成4年には約69%だったゴルフグローブの国内生産の割合は平成18年には約2%まで落ち込んでおり、産業の衰退が急速に進んでいます。

白鳥町の手袋産業は、明治32年に、棚次辰吉が衰退期にあった製塩業に従事する塩業民救済のため、教蓮寺の住職と村長の協力を得て、教蓮寺境内に手袋製造所「積善商会（シャクゼンショウカイ）」を開設したことに始まっています。以来地元の経済を支えた手袋産業ですが、近年量産品の生産はほとんど海外に移ったため、今では付加価値の高い手作り生産に活路を見出そうとしています。ただ手作りは熟練した技術が必要で、当社のオーダーメイドゴルフグローブを委託できる職人もわずか2組の高齢な夫婦だけとなっており、技術の伝承が急務になっています。

オーダーメイドゴルフグローブのオーダーは父の日集中在し、今年の父の日には百貨店やインターネットで合わせて4787セットを販売しました。注文が一時期に集中することでの職人の負担も大きく、ピーク時には注文してから仕上がりまで約3カ月待ちになっています。

当社は「還暦」「定年退職」「誕生日」など1年間を通したオーダーメイドゴルフグローブの提案を行うことで産業の魅力を高め、後継者が生まれるよう販売面でのバックアップを続けます。



裁断と縫製で分担し、手作りの
ゴルフグローブを作る芳田夫婦

本件に関するメディアからの問い合わせ先

株式会社 アスキュー 広報担当：秋吉 純子

大阪市中央区常盤町 1-3-8 中央大通 F Nビル 22F

TEL: 06-6941-0081 FAX: 06-6941-0082

<http://www.usque.com/>

参考資料

オーダーメイドゴルフグローブに対するアスキューの想い

私達の会社アスキューは【絶えず～し続ける】というラテン語から名づけました。この社名のようにアスキューのオーダーメイドゴルフグローブを通して、グローブを贈る方、グローブを使う方、グローブを製作する職人さん達、すべての方から喜びの声を頂き続けることが私達の願いです。

そして、このオーダーメイドゴルフグローブの販売を通して白鳥町の手袋職人さんの後継者育成に少しでもお役に立つことができれば幸いです

オーダーメイドゴルフグローブができあがるまで

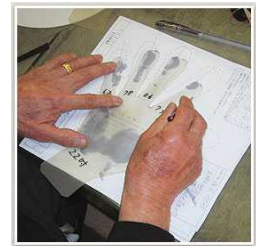
革のばし

一枚の革を縦、横に10回も20回も伸ばします。伸ばすことで革がやわらかくなり味やツヤが出ます



裁断パーツを決める

サイズ手型で合わせながらどのサイズの裁断パーツを使うかを判断し、その後細かく微修正していきます。



革の裁断

手型、親指、指のマチ6つ、マジックテープ、それぞれのパーツを裁断し、親指、人差し指に通気穴を開けます。



グローブ本体の縫製

指部分にマチをつけ縫製していきます。その後余分な縫いしろ部分をカットします。



縫製作業(へりつけ)

グローブのへり部分にへり生地をつけ、マジックテープ部分を取り付けます。



ネーム刺繍入れ

ネームは刺繍専門の職人さんが手刺繍で行ないます。下書きもなく一筆書きしているように縫い上げます。



仕上げ作業

グローブの指部分をひっくり返し、電熱線で熱します。仕上げのアイロンがけを行ない、木槌で軽く叩きながら形を整えます。最後に型崩れしないように丸一日寝押しを行ない完成です

